

- 入場 登, 1994. 石川県産甲虫の記録. アカハネムシ, (9): 2-3.
- 大宮正太郎, 2014. 中能登町久江原山分における水生昆虫の採集記録. とっくりばち, (82): 38.
- 大宮正太郎・福富宏和・吉道俊一・富沢 章・川瀬英夫・浅地哲也・入場 登・樋口陽平・嶋田敬介, 2012. 加賀市片野鴨池における石川むしの会採集観察会 (2012) での採集記録. とっくりばち, (80): 1-7.
- 佐藤正孝, 1985. ミズスマシ科 Gyrinidae. pp. 201-203, pl. 37. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 原色日本甲虫図鑑 II. 株式会社 保育社.
- 高羽正治, 1992. 石川県産甲虫類初出文献一覽表. 石川むしの会特別研究報告, (6): 1-98.
- 辰口昆虫調査会, 2006. 能美市昆虫調査報告書一 辰口地区の昆虫一. 42 pp. 能美市立博物館.
- 富樫一次, 1995. 鶴来町の昆虫相. 102 pp. 鶴来町教育委員会報告調書第10冊, 石川県石川郡鶴来町教育委員会.
- 徳本 洋, 1992. 北陸三県ならびに愛知県の県別水棲甲虫類記録状況一覽. 翔, (97): 11-20.
- 徳本 洋, 1994. 加賀市鴨池の水生甲虫. アカハネムシ, (9): 1.
- 徳本 洋・高羽正治, 1982. 4 昆虫. pp. 59-81, 石川県環境部自然保護課編, 夕日寺健民自然園自然環境調査報告書. 石川県環境部自然保護課.
- 富沢 章, 2006. 中能登町 (旧鳥屋町) 春木で得られた昆虫類. とっくりばち, (74): 61-64.
- 富沢 章, 2008. 加賀南部の水生昆虫 I. 小松市立博物館研究紀要, (44): 1-12.
- 富沢 章, 2009. 加賀南部の水生昆虫 II. 小松市立博物館研究紀要, (45): 1-7.
- 富沢 章, 2012. 能登島の水生昆虫. とっくりばち, (80): 41-43.
- 富沢 章, 2013. 2012 年における河北潟の水生昆虫調査結果. 河北潟総合研究, (16): 1-6.
- 富沢 章, 2016a. 加賀南部の水生昆虫 III. 小松市立博物館研究紀要, (50): 1-9.
- 富沢 章, 2016b. 加賀南部の水生昆虫相. 小松市立博物館研究紀要, (50): 10-23.
- 富沢 章・井村正行・吉道俊一・大宮正太郎・渡部晃平・福富宏和, 2015. 故入場登氏の遺した昆虫標本の目録. とっくりばち, (83): 52-107.
- 富沢 章・川瀬英夫・石川卓弥・橋本 健・捨田利 謙, 2004. 昆虫類. pp. 113-162, 体験学習・自然観察ガイド一いしかわ動物園周辺自然環境調査報告書一. いしかわ動物園.
- 富沢 章・吉道俊一・中田勝之, 2011. 舩倉島・七ツ島の昆虫相. pp. 197-223, 舩倉島・七ツ島自然環境調査団・財団法人北國総合研究所内編, 能登舩倉島・七ツ島の自然環境. 舩倉島・七ツ島自然環境調査団・株式会社北國新聞社.
- 渡部晃平, 2010. 石川県におけるキボシケシゲンゴロウの初記録. 甲虫ニュース, (171): 10.
- 渡部晃平・佐藤卓也, 2016. 小松市西俣川における水生昆虫の記録. とっくりばち, (84): 51-52.
- 渡部晃平・富沢 章, 2016. 能登地方の水生昆虫. とっくりばち, (84): 53-80.
- 山口英夫・荒木克昌, 2001. マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録 (第2報). 翔, (152): 1-2.

(2018年3月16日受領, 2018年6月14日受理)

【短報】石川県におけるマメガムシの記録

マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius) (ガムシ科) は, 水田や休耕田などに生息する止水性の水生甲虫である (林, 2011).

高羽 (1992) によると, 石川県における初記録は高羽ほか (1978) であるが, ここには和名のみが掲載されており採集データは伴っていない. その後, 徳本 (1992) が北陸3県で確認された水生甲虫の種リストを報告したが, ここに掲載されているマメガムシの記録は高羽 (1992) を引用したものであるため, 高羽ほか (1978) を元データとしたものである. その他, 珠洲市史編さん専門委員会 (1976) では, 1975 年の調査においてマメガムシが灯火に飛来したことが記述されているが, こちらもリストのみの掲載で採集データが伴っていない.



図1. 石川県産マメガムシ.

その後, 本種は

県内から記録されておらず, 石川県産の標本も確認できない状態が続いていた. 2016 年に筆者の一人佐藤のコレクションの一部が石川県ふれあい昆虫館に寄贈されたことを受け, 渡部が標本を調査した結果, 本種を発見したため, 石川県における正式な記録として報告する.

1 ex., 加賀市熊坂町, 23. V. 1996, 佐藤採集, 石川県ふれあい昆虫館保管 (図1).

本種が確認されたのは谷津田の最も奥にあるため池であった. 採集当時は池全体が浅く, ミズオオバコ, コウホネ, ヒツジグサ, ジュンサイ, タヌキモ類などが生い茂る良好な環境が残されていた (図



図2. マメガムシ確認当時の生息環境 (1996年8月14日撮影).

2). しかし、2011年7月23日に佐藤が訪れた際には、工事によりため池南東側の山が大きく削られ、ため池も大きく掘り下げられていた。筆者らが2016年8月20日に生息確認に訪れた時にも工事が行われており、ため池にはヒシが繁茂していたが水際植生は乏しかった。水生甲虫はヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay), コシマゲンゴロウ *Prodaticus grammicus* (Germar), ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius) などがわずかに見られた程度で、外来種のトガリアメンボ *Rhagadotarsus kraepelini* Breddin が侵入していた。周囲の水田は中干しにより落水していたため、残された水たまりや明渠を調査したが、本種の確認には至らなかった。愛媛県の事例では、水田や明渠で確認されていた本種の個体数は、中干し後の8月後半に明渠で増加している(渡部, 2016)。今回の調査時もほぼ同様の条件下であったため、本種が生息していた場合には、ため池や明渠に移動している可能性が高いと考えられた。しかし、実際には1頭も確認できなかったことから、周囲の水田環境も含めて本種の生息は危機的であるものと推測される。

本種は環境省版のレッドリストには掲載されておらず(環境省自然環境局野生生物課, 2017)、三田村ほか(2017)でも採集難易度が最も低くなっていることなどから全国的には普通種の部類に入ると考えられる。一方、石川県版レッドデータブックでは、タガメ *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy) (絶滅種)、シマゲンゴロウ *Prodaticus bowringii* (Clark) (絶滅危惧I類)、マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* (Clark) (絶滅危惧I類)、コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp) (絶滅危惧I類)、カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Bartenef (絶滅危惧I類) などの水田で繁殖する種が軒並み高ランクに位置していることから(石川県野生動物保護対策調査会, 2009)、水田環境に生息する水生昆虫が減少傾向にあることがうかがえる。これには、一部の水田農薬やマツクイムシ防除の農薬の影響などが考えられ(富沢, 2014; 渡部, 2017)、本種の生息確認事例が乏しいことにも関係している可能性がある。

引用文献

- 林 成多, 2011. 島根県の水生甲虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (1): 1-117.
 石川県野生動物保護対策調査会, 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物いしかわレッドデータブック〈動物編〉2009. 446 pp. 石川県環境部自然保護課.
 環境省自然環境局野生生物課, 2017. 報道発表資料 環境省レッドリスト2017の公表について. (2018年3月18日参照) <http://www.env.go.jp/press/103881.html>
 珠洲市史編さん専門委員会, 1976. 第六節 昆虫類(INSECTA).

- pp. 349-393, 珠洲市史 第一巻=資料編 自然・考古・古代. 石川県珠洲市役所.
 高羽正治・松枝 章・村上維喜・入場 登・三蔭外茂治, 1978. 鞘翅類. pp. 19-147, 石川県の自然環境 第4分冊 昆虫, クモ, 両生, 爬虫類. 石川県.
 高羽正治, 1992. 石川県産甲虫類初出文献一覧表. 石川むしの会特別研究報告, (6): 1-98.
 徳本 洋, 1992. 北陸三県ならびに愛知県の県別水棲甲虫類記録状況一覧. 翔, (97): 11-20.
 富沢 章, 2014. 殺虫剤の空中散布が昆虫類に与える影響の一事例. とっくりばち, (82): 29-30.
 渡部晃平, 2016. 愛媛県南西部の水田における明渠と本田間の水生昆虫(コウチュウ目・カメムシ目)の分布. 保全生態学研究, 21: 227-235.
 渡部晃平, 2017. 絶滅危惧種に指定された水生昆虫と水田との関係. 昆虫と自然, 52 (4): 5-8.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地
 石川県ふれあい昆虫館)
 (佐藤卓也 923-0931 小松市大文字町129)

【短報】マルキバネサルハムシの♂黒化型を採集

今坂・南(2008)によれば、マルキバネサルハムシ *Pagria ussuriensis* Moseyko et Medvedev は♀に黒化型が現れるとのことであるが、筆者らは♂の黒化型(図1-4)を採集したので報告する。

1♂, 東京都稲城市大丸(多摩川河川敷), 23. VII. 2016, 伊藤淳採集; 1♂, 東京都稲城市押立(多摩川河川敷), 5. XI. 2017, 伊藤淳採集; 1♂, 大分県日田市中津江村栃原, 1. VI. 2010, 佐々木茂美採集; 1♂, 大分県日田市上津江町広川, 10. IX. 2010, 佐々木茂美採集; 1♂, 大分県日田市上津江町白草, 30. VIII. 2008, 佐々木茂美採集。

稲城市の2頭は、「肢を除いてほぼ全体黒く、上翅基部の隆起部あるいは側方に黄褐色紋を持つ」と今坂・南(2008)が述べて写真を掲載した♀黒化型の特徴に一致している。一方、日田市の3頭は黄褐色紋がたいへん小さく、小楯板側方に認められる。これらの個体はすべて交尾器を検して本種の♂と同定した。標本はそれぞれの採集者が保管している。

発表を勧められた今坂正一氏および、氏とともにキバネサルハムシ類について種々御教示くださった南雅之・末長晴輝の両氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 今坂正一・南 雅之, 2008. 日本産 *Pagria* (キバネサルハムシ属) について一付. 東南アジア産種種の記録-1. 佐賀の昆虫, (44): 253-263.